

## 日本生体医工学会 平成21年度 第4回理事会 議事録

日時： 平成22年1月29日 14時～17時

場所： 東京八重洲ホール702号室

出席者

楠岡	安藤	福井	生田	石原	伊関	小笠原	佐久間	佐藤	砂川	土肥	橋爪	林	堀	牧川	湊	山家	山越	菊池	山口	植野	松村	河原	伊東	田村	岩田	千原	梶谷	廣川	千田	徳山	
英雄	讓二	康裕	幸士	謙	洋	康夫	一郎	正明	賢二	健純	誠	紘三郎	正一	方昭	小太郎	智之	憲一	眞	隆美	彰規	泰志	剛一	典	俊世	彰	國宏	文彦	俊二	彰一	久美子	
○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○

配布資料

- 21-4-2 平成21年度第1回理事会議事録（案）
- 21-4-3 平成20年度第5回理事会入退会審査対象者
- 21-4-4 内閣府公益等認定委員会「相談窓口」記録
- 21-4-5 ME教科書シリーズ進捗状況表
- 21-4-6-① 平成21年度各賞選考状況
- 21-4-6-② 平成21年度荻野賞について
- 21-4-7 平成22・23年度理事・監事選挙開票結果
- 21-4-8 専門別研究会について
- 21-4-9-① Journal@rchive について
- 21-4-9-② 電子アーカイブ化に関する覚書
- 21-4-10-① 第48回日本生体医工学会大会収支報告書
- 21-4-10-② 平成22年度収支予算書案
- 21-4-11 講演会、シンポジウム等主催提案書「生体医工学フォーラム2010」
- 21-4-12 第49回日本生体医工学会大会のご案内

## 議事

1. 理事会成立の件（総務 湊）  
定款に定める要件を満たしている（理事出席 17 名 委任状 2 通 計 17 名／18 名）  
ことを確認して理事会成立を宣言した。
2. 前回議事録承認の件（審 総務 湊 資料 21-4-2）  
前回議事録について承認された。
3. 入退会（審・回覧 会員 資料 21-4-3）  
入会：正会員 20 名 準会員 2 名  
退会：正会員 10 名 準会員 2 名  
逝去：正会員 1 名  
全入退会、資格変更が承認された。  
この結果、現況は正会員（国内）2306 名、正会員（海外）42 名、準会員（国内）369 名、準会員（海外）0 名、維持会員 16 社 24 口 顧問 3 名、名誉会員 56 名となることを確認した。
4. 一般社団法人化日程の再調整について（審 総務 楠岡 資料 21-4-4）
  - 一般社団法人移行に関して内閣府公益認定等委員会の相談窓口に行き、以下の指摘を受けた。
  - 一般社団法人に移行する前に、事務所移転についての定款変更を行う必要がある。この変更には文部科学省の承認が必要。
  - 文部科学省に定款変更について接触したところ、「事務局を設置して専従の事務局員を置く」ように指導を受けた。事務局の設置、事務局員の設置について、定款変更 WG を中心に対案を作成する。
  - 現在約 1.6 億円ある公益財産を 0 にする必要がある。この財産は公益事業を行って減らす必要がある。雑誌の発行は公益事業になるが、試験は可能性があるが工夫が必要。
  - 定款をモデル定款に沿って作り替える必要がある。
  - 代議員の選出はこれまでの方法で問題ない。推薦委員会による推薦も可能であるが、総会で承認される必要がある。
  - ワーキングを継続する。
  - 6 月までにめどを立てておく必要がある。
5. ME 教科書シリーズ進捗状況について（審 教育 牧川 資料 21-4-5）
  - 教科書を企画して約 15 年が経過した。
  - 一部に終了宣言をして中止とする項がある。
  - 今年末までに脱稿できない場合は終わりにしたい。

- 教科書作成の活動は重要であり、次の新しい企画をスタートさせる。新しい分野を取り入れて再構成する必要がある。
- 生体医工学の学科ができています。これらの学生を対象とした教科書が必要。現教科書は、難しすぎて学部学生を対象とできない。学部学生を対象とした教科書が欲しい。

6-①. 平成21年度選奨各賞選定状況の件（報 選奨 橋爪 資料 21-4-6-①）

- 論文賞：推薦総数 24 件、17 編が対象論文。現在一次選考中
- 研究奨励賞：推薦総数 41 件、24 演題が対象。現在一次選考中
- 新技術開発賞：推薦総数 5 件、製品詳細、パンフレット等を請求中。
- 荻野賞：応募総数 3 件

6-②. 荻野賞について（審 選奨 橋爪 資料 21-4-6-②）

- 荻野賞の対象者が仮入会中であるが、受賞資格ありとして良いか。
- もし無いとした時には再公募するか。再公募すると、既に会員になっていることになる。
- 研究奨励賞の対象者 5 名を非会員であるために外したが、公平性の観点でどう考えるか。
- 審議の結果、荻野賞については入会手続きをしている人も認める方針とする。
- 非会員が研究奨励賞の一次選考に上がっている場合は、会員になることが選考対象の条件であることを本人に通知し、入会を勧める。

7. 平成 22・23 年度理事・監事選挙開票結果の件（報・審 選挙管理 小笠原 資料 21-4-7）

- 投票用紙発送数は 2186 通、返送数は 487 通（22.2%）、開票数 456 通、有効投票数 455 通、無効投票数 32 通（白票 1、期限遅れ 31）
- M 系理事・監事候補者は、阿部裕輔、杉町勝、千田彰一、橋爪誠、E 系理事候補者は、生田幸士、小笠原康夫、田村俊世、千原國宏、林紘三郎、湊小太郎
- 得票数を公表するか否かで議論された。過去の慣習にならって今回は公表しなかったが、学会によっては次点まで得票数を公表している。医学系では公表することが多いが、工学系では公表しないことが多い。透明性を確保する意味で得票数を公開することは適当との意見がある一方で、選挙管理委員会を信用しているので透明性に問題はなく、公表しても次に何をするのが不明とする意見もあった。
- 最低得票数を公表することについて合意が得られた。最低得票数 M 系 126 次点 106 E 系 160 次点 146 であった。
- 現在、次点の繰り上げの規定はなく、今後、理事会で検討していくこととなった。

- 次回からは、監事が選挙管理委員長となる。

8. 専門別研究会の件（報 学術 橋爪 資料 21-4-8）

- 専門別研究会について資料の通り 4 件の申請があったことが報告され、承認された。
- これまで、研究会の委員が生体医工学会の会員でないケースが多くあった。本来、構成員は会員であるべきであり、少なくとも幹事は会員である必要があることについて確認された。

9-①. Journal@rchive について（報・審 編集 田村代徳山 資料 21-4-9-①）

- 科学技術振興機構（JST）から、生体医工学をアーカイブする件について回答があった。
- アーカイブ事業の最終年ということもあり、依頼数が多く、全ての依頼に応じることができない状況となっている。
- 生体医工学についてはアーカイブ事業の対象に含まれ、一部は今年度中に着手できるとの回答があった。

9-②. 電子アーカイブ化に関する覚書について（報・審 編集 田村代徳山 資料 21-4-9-②）

- 生体医工学会と JST との間で資料の覚書案が提示された。この案で覚書を交わすことについて承認された。

10-①. 大会の収支報告書の公開について（報・審 財務 福井・砂川 資料 21-4-10）

- 第 48 回日本生体医工学会大会の収支について報告があった。
- 第 49 回大会の寄付募集に際し、先行の大会の収支決算を公表して欲しいとの要望があった。理事会で認められたが総会で承認前の収支報告書を公開してよいかについて議論された。寄付金が全体の収入に対して上限が定められているために必要と考えられる。総会で承認を得ていないので暫定版として提供することとなった。

10-②. 平成 22 年度収支予算書案について（報・審 財務 福井・砂川 資料 21-4-10）

- 平成 22 年度収支予算書案が提示された。
- 前年度に比し収入については、会費・入会金収入を減、購読料収入、大会収入、雑収入を増としている。支出は、専門別研究会、大会関係費を増としている。
- 事業活動収入計 133,725,000 円、総支出計 139,355,000 円、収支差額は-5,630,000 円。特別資産取得支出として **Traveling Fellowships** 積立金繰入支出が 150,000 円

とする。当期収支差額は 5,780,000 の赤字予算としている。

- 増額減額のある場合は次回の理事会までの提案してほしいとの連絡があった。
- **Travelling Fellowship** が 3 年に 1 回では間が開きすぎてしまうので、もう少し間を詰められないかを検討しているので、その結論によって来年度予算に反映していただくことを依頼したい。

11. 生体医工学フォーラム 2010 (報 医用研設立準備 佐久間 資料 21-4-11)

- 生体医工学フォーラム 2010 の開催案が報告された。
- 「トランスレーショナルリサーチ、レギュラーサイエンスの現状と課題」をテーマとし、日本学術会議講堂にて平成 22 年 3 月 3 日に開催の予定。

12. 第 49 回準備状況報告 (報 第 49 回大会 千田 資料 21-4-12)

- 2010 年 6 月 25 日～27 日、大阪国際交流センターで開催。
- テーマは「**Revolution ME**」
- 特別講演に体内埋込み型左心補助人工心臓について、また、**JAPAN Original** と題し、日本発の国際的臨床応用開発技術 (パルスオキシメータ、カラードプラーなど) を開発者の立場から講演いただく。
- **Abstract** は英語を原則とするが日本語も可とする。論文はこれまで全て日本語であった経緯から、日本語も可とするが、英文の場合は 2 ページでも可とすることでインセンティブをつける。
- 英語の **Call for paper** を出す。
- 寄付、展示がふるわない。展示を何とか確保したい。収入が厳しいと予想される。

13. 第 50 回準備状況報告 (報 第 50 回大会 土肥)

- 東大・如水会館で開催の予定。
- 高校生のコンテストについては無理があるのではとの意見がある。これまで参加校が固定している傾向がある。49 回大会でも継続させるか検討中。
- **NEDO** との関係について明らかにする必要がある。土肥先生が担当の時に、**NEDO** の成果を発表する機会がなかったのが学会の機会を提供したことからスタートしている。現在は、**NEDO** 側が既得権と捉えられている感があり問題がある。ただ、良い企画があるのであれば発表していただくのは良いことである。
- **NEDO** との覚え書きを学会と取り交わしておく必要が指摘され、**NEDO** と交渉することとなった。

14. 第 51 回大会について (報 第 51 回大会 )

- 次期会長が決まり次第、大会長を決める必要がある。

15-①. 協賛等の状況

- 資料回覧にて承認された。

15-②. その他

- 日本医学会の会長・副会長の選挙がおこなわれる。楠岡先生の代わりに安藤先生に代理で出席していただく。臨床系副会長に大阪大学の門田先生が推薦されており、学会として投票の予定。
- 次回、会長選出委員会を行うため3月19日13時からとなる。
- 次回理事会で名誉会員の推薦審査を予定している。
- 佐久間先生より、「ベトナムでBMEが立ち上がろうとしている。大学で指導できる人にサポートしてもらえないかと頼まれている」との報告があった。